

がん医療に携わる 看護研修事業

公益社団法人日本看護協会
常任理事 川本利恵子

本日の内容

- 事業開始の背景・経緯
- 事業内容
 - テキスト作成
 - 研修開催
- 現在までの事業実施状況
- 事業評価

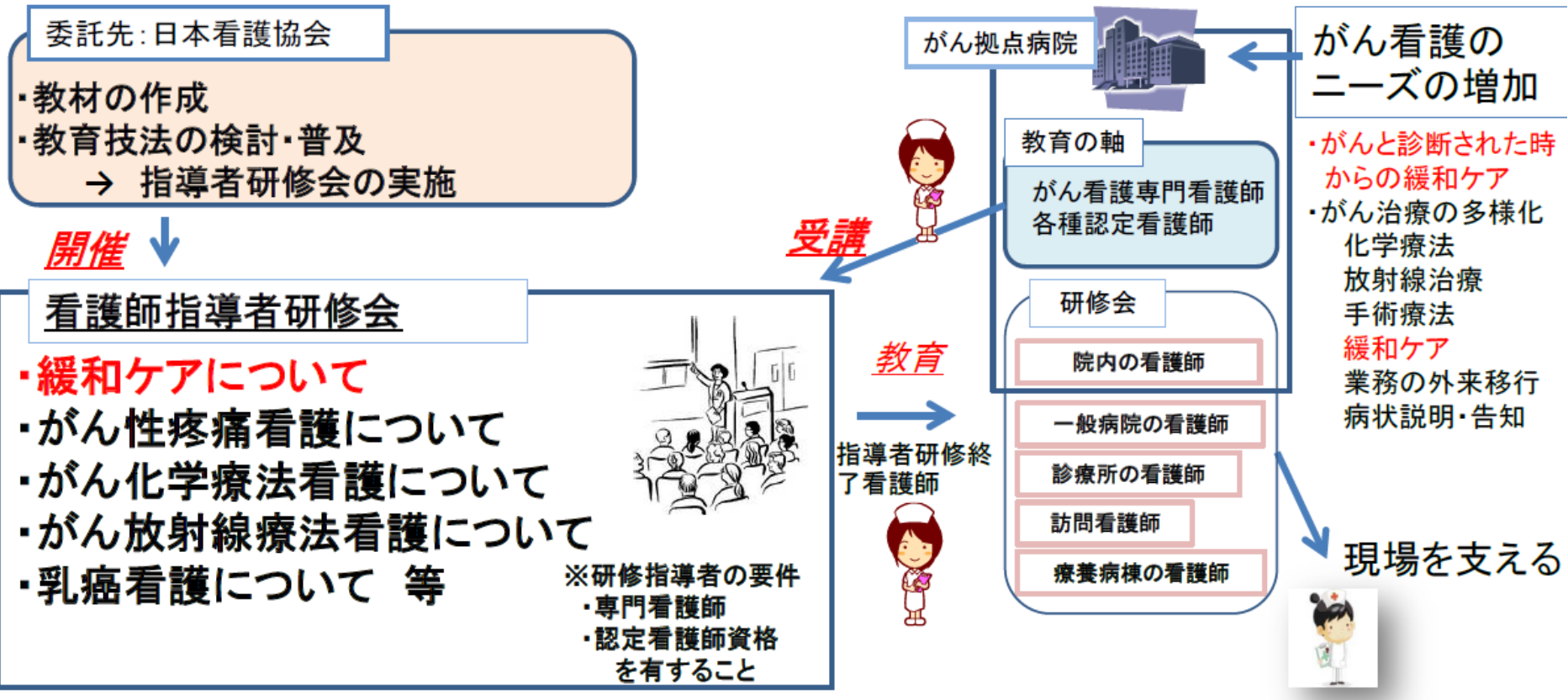
事業開始の背景・経緯

- がん治療の多様化と看護業務の多様化を背景にがん看護へのニーズは高まっているが、教育が均一化されておらず、質が担保されていない。
- 第2期がん対策推進基本計画で掲げられた「がんと診断された時からの緩和ケア」を実現するためには、医師だけでなく看護師のケアの充実が求められている。



厚生労働省 第9回緩和ケア推進検討会において、**看護師を対象とした緩和ケア研修の重要性**が示唆。

事業概念図



事業概要

H25年度より厚生労働省からの受託で公益社団法人日本看護協会が実施。

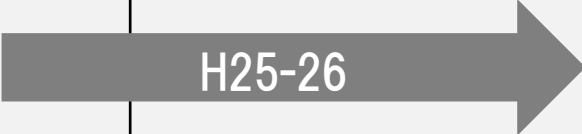
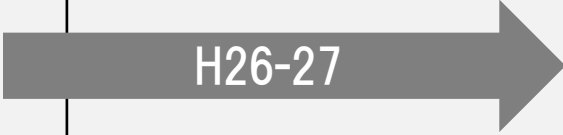
目的

がんと診断された時からの緩和ケアの充実を図る

事業目標

- ①がん医療に携わる看護師向けの教育用テキストを作成し、緩和医療に関して広く情報を周知させていく
- ②専門看護師や認定看護師が、病院内で一般看護師及び緩和ケアの一定水準を維持したリンクナースを育成するための指導者研修を行う

H25-27年度 事業計画

	25年度	26年度	27年度
テキスト作成	緩和ケア教育 テキスト作成	・テキスト改訂版作成 ・指導マニュアル作成	
指導者研修実施	集合研修	 H25-26 オンデマンド講義 + 集合演習	 H26-27
事業評価 (受講者活動 状況把握)		H25・26受講者 活動状況把握	H25-27受講者 活動状況把握
事業報告			事業報告会 3カ年実績報告書作成

がん医療に携わる看護研修事業 特別委員会メンバー

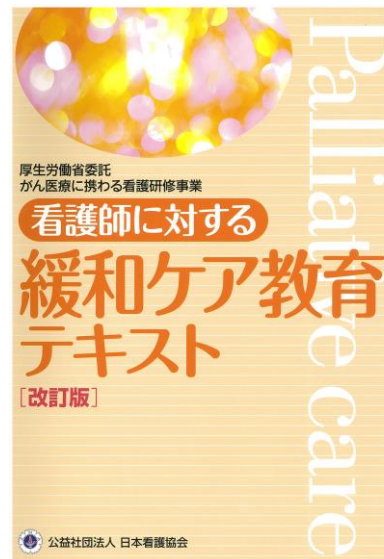
	氏名	所属／役職
委員長	小松浩子	慶應義塾大学看護医療学部 教授
委員	市川智里	国立がん研究センター東病院 副看護師長/がん看護専門看護師
	梅田恵	株式会社緩和ケアパートナーズ 代表取締役/がん看護専門看護師
	遠藤久美	静岡県立静岡がんセンター 看護師長/がん看護専門看護師
	金井久子	聖路加国際病院 副看護師長/乳がん看護認定看護師
	川崎優子	兵庫県立大学看護学部 准教授
	近藤まゆみ	北里大学病院 看護師長/がん看護専門看護師
	田村恵子	京都大学大学院医学研究科 教授 がん看護専門看護師
	森 文子	国立がん研究センター中央病院 副看護部長/がん看護専門看護師
	渡邊眞理	神奈川県立がんセンター 副院長 看護局長/がん看護専門看護師
	近藤 百合子	社会福祉法人聖ヨハネ会 桜町病院 /緩和ケア認定看護師
	菅野かおり	日本看護協会神戸研修センター 認定看護師教育課程教員 /がん化学療法認定看護師
	竹股喜代子	日本看護協会看護研修学校長
オブザーバー	渋谷美香	日本看護協会看護研修学校教育研究部長

「看護師に対する緩和ケア教育」テキスト および指導マニュアルの作成

- 特別委員会にて作成
- 内容の妥当性については有識者ならびにがん診療連携拠点病院の看護師へのヒアリングを実施
- テキストは、研修受講者をはじめがん診療連携拠点病院409施設に各10冊配布＋施設内研修用に研修受講者施設に別途送付



H25年度版
(6900部配布)



H26年度改訂版
(5600部配布)



指導マニュアル
(800部配布)

テキスト構成の土台

基本的緩和ケアを担う看護師に求められる役割

意思決定支援

苦痛緩和

専門家への橋渡し・連携

基本的コミュニケーション

がんと診断されたときから質の高い緩和ケアの提供

「看護師に対する緩和ケア教育」テキストの構成

第1章 緩和ケアの概要
第2章 患者の意思決定支援
1.基本的コミュニケーションスキルの活用
2.がん患者の意思決定の実際
3.臨床で活用できる意思決定支援ツール
第3章 苦痛緩和
1.全人的苦痛とは
2.がん患者に多くみられる苦痛症状
3.症状マネジメントの実際
4.包括的アセスメントの進め方
第4章 専門家への橋渡し・連携
1.患者ニーズのアセスメント
2.リソースの効果的活用
3.多職種連携
4.コンサルティの役割

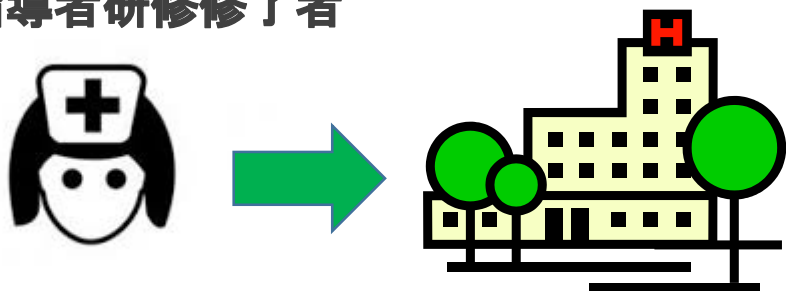
*H26年度は事例を追加し改訂版とした

*H26年度作成の「指導マニュアル」において研修展開の実際をまとめた

がん医療に携わる看護研修事業普及プラン

本事業(H25-27)

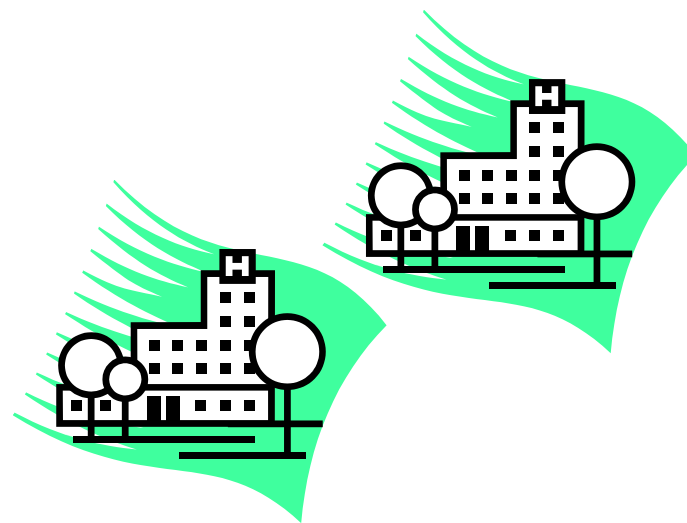
指導者研修修了者



- ①所属施設の外来看護師への教育
- ②所属施設の病棟看護師への教育
- ③所属施設のリンクナースの育成

期待される波及成果

地域における一般病院・診療所・療養病棟の看護師・訪問看護師を対象とした研修会の企画・実施



研修プログラム構成

章	単元名	(分)
第1章	緩和ケアの概要	40分
第2章	患者の意思決定支援 講義1 基本的コミュニケーションスキルの活用 演習 患者の意思決定支援 基本的コミュニケーションスキル(NURSE) 講義2 がん患者の意思決定の実際	70分 100分 70分
第3章	苦痛緩和 講義 1.全人的苦痛とは (アイスブレイキング含む) 2.がん患者に多くみられる苦痛症状 3.症状マネジメントの実際 4.包括的アセスメントの進め方 演習 ・事例検討:包括的アセスメント	35分 100分 110分
第4章	専門家への橋渡し・連携 講義 1.患者ニーズのアセスメント 2.リソースの効果的活用 3.多職種連携 4.コンサルティの役割 演習 事例検討	60分 60分 60分

H25-27年度 研修修了者目標数

- がん診療連携拠点病院409施設において、指導者研修を修了したがん専門看護師・がん分野の認定看護師*が各施設3名となる

409施設 × 3 = 1,227名

*緩和ケア・がん化学療法看護・乳がん看護・がん性疼痛看護・がん放射線療法看護

- 「看護師に対する緩和ケア教育」の指導者研修
現在までの受講修了者数: 316名

開催年度	実施時期	研修方法	修了者数
H25	H26年2月	集合研修	163名
H26	H26年9月	集合研修	153名

受講機会拡充の方策

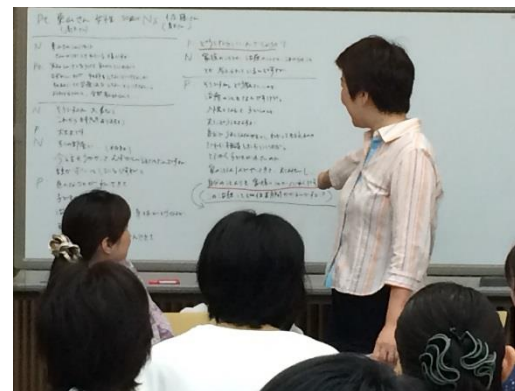
インターネットによる
オンデマンド配信講義



受講者が各自、自宅などで
講義受講



集合研修

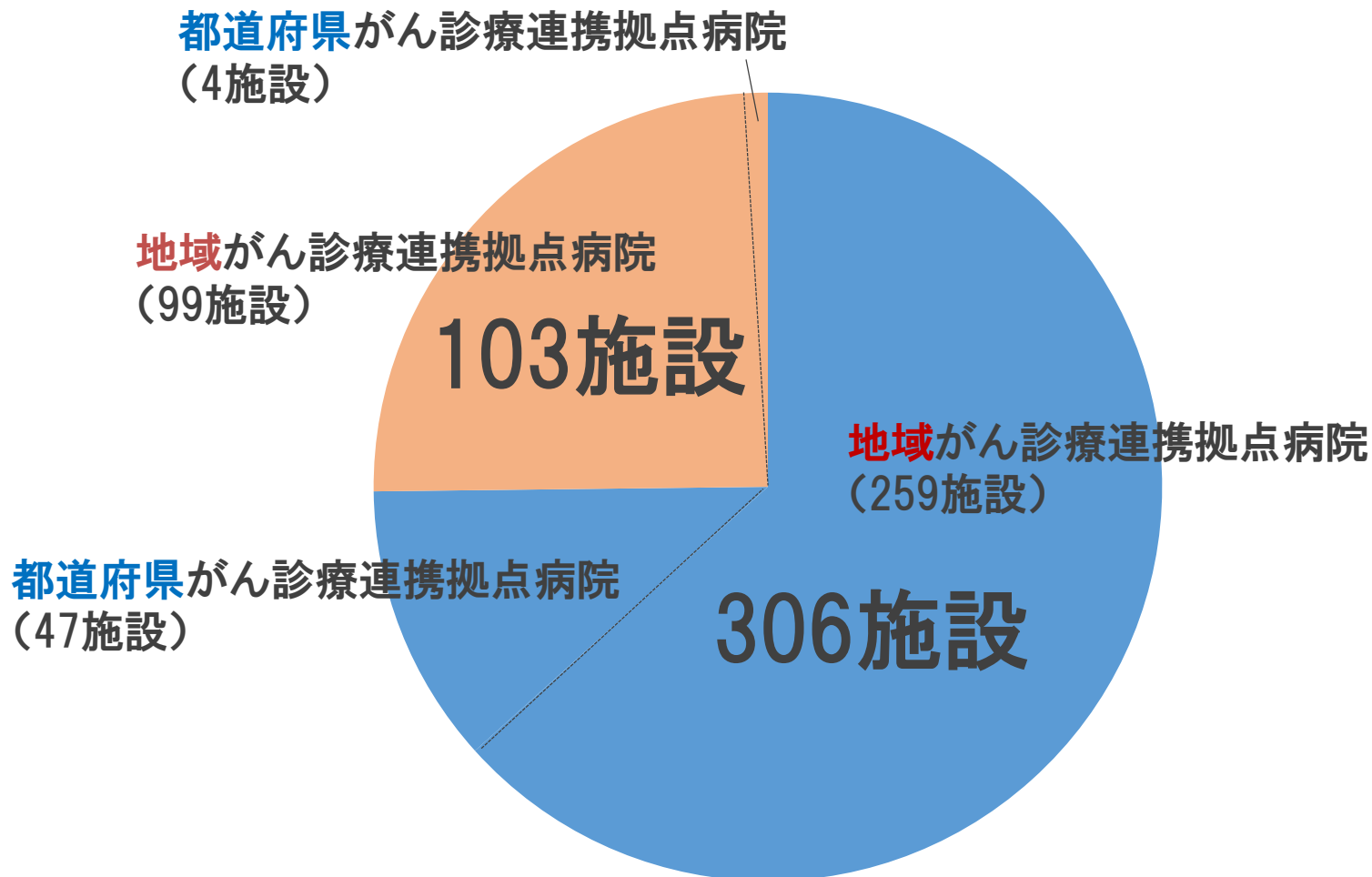


決められた日時・場所で
演習受講

H26年度の受講予定数

実施時期	研修方法	受講予定数
H26年11月～H27年1月	オンデマンド配信講義	265名
H27年1～2月	集合演習	

がん診療連携拠点病院409施設 研修受講修了者の在籍状況



研修受講修了者(予定含む)の在籍する施設

研修受講修了者(予定含む)が在籍していない施設

※H26年12月時点

事業評価

「研修受講後の教育活動の把握と評価」

1. アンケート調査

(1) 研修受講後の調査

実施時期：H26年11月～H27年1月

対象：H25年度の研修修了者163名

(2) 研修受講前後の調査

実施時期：H26年11月～H27年2月

対象：H26年度の研修受講者265名

2. フォーカスグループインタビュー

実施時期：H26年12月

対象：H25年度の研修修了者14名